

竹早だより

平成29年度5月号
平成29年5月22日
東京都立竹早高等学校
文京区小石川4-2-1
電話03(3811)6961

選択の季節

校長 高田 純一

2年次文理選択、3年次コース選択に向けて、「進路ガイダンス」「選択説明会」のような企画が断続的に実施されます。1学期後半の竹早は「選択の季節」を迎えます。

まず、2年次文理選択ですが、いつの時代も多く的高校生を悩ませてきた人生最初の選択となります。たった「2択」なのに、非常に難しく、後になり「選択を誤った」と後悔する人が多く出ます。1学年の先生方が言うように、一度頭の中をまっさらにして一から考えてみることをお勧めします。

「医学部を出て小説家になる人はいるが、文学部を出て医者になる人はいない。」という言葉ですぐに分かると思いますが、理系の専門性を後で身に付けることは困難です。今回文系を選んでしまうと、理系への道はほぼなくなります。文転は一応可能ですので、どうしても決められない場合は、とりあえず理系にしておくことをお勧めします。

次に、3年次コース選択です。問題は「国立文系」か「私立文系」かということです。ここでも、国立大学に行きたい気持ちがあるのなら、「国立文系」にするのが原則です。「本当は国立に行きたいが、合格できるかどうか自信がないからやめておこう」という発想は、戦わずして逃げてしまうということであり、今後の人生も「推して知るべし」ということになってしまいます。私の例ですが、英語が極端に苦手だったので、私立は最初から全く考えませんでした。それに比べて、国語、数学、社会は、得意だったので「英語が0点でも受かる作戦」と銘打って、国立一本で行きました。このように国立の科目数の多さは、苦手科目をカバーしてくれることを覚えておいてください。

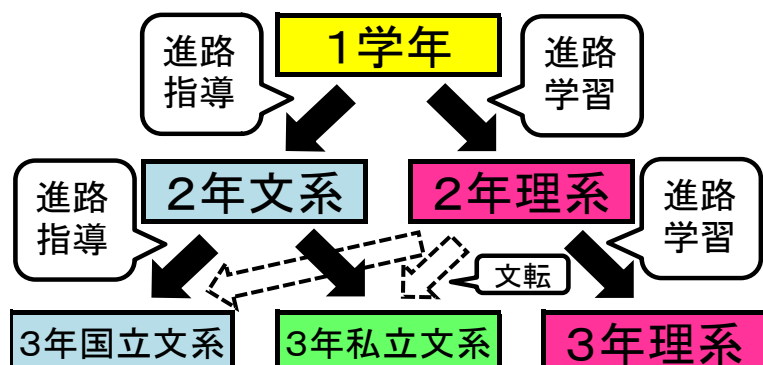
2年次文理分けのもつ意味

全国の進学校の多くは「2年次文理分け」を行っています。それに対し都立の進学校では「2年次文理分け」の方が少数です。「2年次文理分け」がなくてもきちんとした進路指導が行われれば問題ないのですが、どうかすると1年次に何も考えずにのんびり過ごすことになってしまい、中だるみ（模試の偏差値低下）につながる場合もあります。

「2年次文理分け」の場合は1学年の1学期から、進路指導が盛んに行われ、生徒も将来について考えたり、調べたりせざるを得なくなり、自然に対応が早まります。2学年の教室では同じ進路希望をもつ仲間が集まり切磋琢磨しますので、良い意味で緊張感のある生活になります。

「2年次文理分け」にはそんなねらいがあるということを覚えておいてください。（なお、右図は学校説明会の使用スライドです）

☆場面ごとの指導・学習が必須 → 指導の均質化



2年連続順延となった体育祭

5月15日（月）六義公園運動場において今年度の体育祭を実施しました。昨年度に引き続き、2年連続で順延となったわけですが、当日は薄曇りの涼しい天候で熱中症の心配もなく進めることができました。

一番の見せ場である各団のパフォーマンスは、今年も粒ぞろいの出来で、特に手具を効果的に生かした演出が目立ちました。競技の方も、大きな事故なく円滑に行うことができました。生徒の皆さんがルールを守って真剣に競技に取り組んだからだと思います。朝早くから応援に来ていただいた保護者の皆さん、大変ありがとうございました。



5月・6月の主な行事予定

〈5月〉

27（土）土曜授業（2）

30（火）中間考査始



〈6月〉

2（金）中間考査終

10（土）土曜授業（3）

12（月）進路ガイダンス①

17（土）土曜授業（1）保護者会①②

19（月）進路ガイダンス②

24（土）土曜授業（2）保護者会③

26（月）進路ガイダンス③